東京若越クラブ会員の皆様へ

コロナ禍の中、いかに福井とつながりを持つか

東京若越クラブの会員の皆さまにおかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

新型コロナウィルスの感染拡大が収まらず、それぞれのお仕事や暮らしにさまざまな支障をもたらしていると思います。ヒトからヒトへの感染を不安視しながらの日常は、おそらく１年以上も収束せず、相当の長期化を覚悟しなくてはならないと思います。当クラブ活動も、メンバーが顔を合わせることで成り立っていたのですが、コロナ禍の長期化を踏まえ、大きく見直さざるを得なくなりました。

コロナ禍によって、メンバーの大多数は古里・福井に旅行することも控え、帰省することも叶わなかったのではないのでしょうか。しかし、もともと、当クラブの活動コンセプトは『ふるさと・福井を勝手に応援する』です。こんな状況の中でも、当クラブの存在意義として大切なことは、われわれが何らかのカタチで　〝福井とつながっている〟　ことだと考えます。

そこで私と事務局からの提案ですが、新しい事業として、福井の農産物や水産物など会員を対象とした通信販売（通称：『若越便』）を始めたいと思います。

越前・若狭は美味し国であります、しかし首都圏に暮らしていると、身近で福井産に出合うことは、そう頻繁にはありません。一方で、福井には越前ガニ、おろし蕎麦のほかにも美味しものはまだまだたくさんあります。事務局の福井新聞社の情報網を駆使してもらい、品質的にも優れ、かつ安全な福井の優れものを発掘していきたいと思います。

皆さまには、福井産をどんどん購入していただき、食卓にあげていただくことで福井の良さを改めて感じていただきたい、言うならば　『あなたの生活にもっともっと福井産を使いましょうや』　というキャンペーンであります。また、こうしたキャンペーンを首都圏で広げることが、ふるさとの優れた生産物、地域の逸品づくりに前向きな福井人を応援することにつながると考えます。ぜひ、この趣旨をご理解いただき、新事業への積極的な協力をよろしくお願い申し上げます。

東京若越クラブ代表幹事　　小林　栄三